

3 学校外における不登校児童生徒の支援

地域ではさまざまな立場の方が、それぞれの考え方で支援に関わっています。

(1) 医療機関

本人の様子を見て受診する医療機関を選ぶ

登校前や学校で、子どもさんが身体の不調や症状を訴えると、まずはかかりつけ医に受診します。ただ、症状が繰り返し、検査してもとくに問題な所見が認められないとなると悩ましくなります。そのような時は、本人にとって何か負担になることが起きているのかなと思い巡らしてみてください。信頼できる人がいれば、例えば、担任や養護の先生、カウンセラーさんらに相談することもお勧めです。先生方からみても心配なことがあったり、不眠症状や不安が強そうな場合は心療内科や精神科も紹介して下さるかもしれません。そうした場合、できれば予約をとるのが通常です。本人が応じそうもない時は、本人の困りや苦痛を共有することを意識しつつ、保護者だけで通所することも対応の第一歩になります。

みどりクリニック 鈴木先生

群馬県内の相談先医療機関は県ホームページから御覧ください

群馬県統合型医療情報システム
(<https://www.med.pref.gunma.jp/>)



精神科医療機関
(<http://www.pref.gunma.jp/07/p11700023.html>)



発達障害に関する医療機関
(<http://www.pref.gunma.jp/02/d4200262.html>)



(2) 地域の身近な支援者（民生委員・児童委員）

まずは身近な民生委員に声をかけてみてください

民生委員として厚生労働大臣から委嘱を受けて5年になります。高齢者の見守り活動が中心になっておりましたが、児童委員も兼ねていて不登校やひきこもりが増えていることを知りました。

私自身、娘が小学校から不登校になり、心配した時期も数年ありましたが、同じ悩みを持つ親同士で「不登校の親の会」を立ち上げ、居場所を作り、語り合ったりしながら活動を続けました。

今、子どもを育てているお母さんたちが、不安や心配事を抱えたまま、相談できずに困っていたら、まずは地域の身近な民生委員に声をかけてみてください。何かしら糸口が見つかれば幸いです。

民生委員・児童委員 高木恵子さん

民生委員・児童委員の地域での活動は、市役所・町村役場にお問合せください

(3) 安心・安全な居場所（子ども食堂、フリースクール、フリースペース）

不登校で悩み苦しんだり、ひきこもり状態が長期化して学校や社会の支援から離れて孤立してしまったりしている当事者にとっては、人と関わることには大きな不安があります。自分から一歩前に踏み出す時、その気持ちを後押しするきっかけが必要ではないでしょうか。不安な気持ちを聞いてくれる人がいる、和らげてくれる人がいる、そこが当事者の「安心・安全な居場所」なのかもしれません。

地域に求められる第3の居場所

「こども食堂」は、子どもから高齢者まで誰もが利用できる地域の「第3の居場所」として全国各地に広がってきています。貧困家庭だけが利用するのではなく、地域の子どもの対象に学習支援や読み聞かせなど特色ある活動を行うところもあり、「食事」を介した「安心・安全な居場所」になっています。県内では「こども食堂ネットワークぐんま」が40団体（*）で構成されています。

多くは子ども同士や大人との交流、共生型を掲げていますが、心ではお腹をすかせている子どもたちにも来て欲しいと思っています。支援を必要とする家庭に情報が届き、子どもたちがつながることを願っています。専門家でないからこそ気軽に話せる雰囲気からポロッと本音がこぼれるののかもしれません。何か困りごとがあれば支援機関につなぐことも意識しながら、地域の多様な人との楽しい出会いで子育てをする素敵な場面がこども食堂にはあります。まさにサードプレイス、地域の「みんなの食堂」です。

こども食堂ネットワークぐんま代表 丸茂ひろみさん

（*）「こども食堂ネットワークぐんま」（群馬県社会福祉協議会内）団体情報
<https://www.g-shakyo.or.jp/department/seikatsu/22260.html>

居場所とは「心の拠り所」

私たちが運営するフリースクール「こらんだむ」で最も大切にしていることは、安心安全な居場所づくりです。不登校になった子どもは、元々安全安心な居場所であった家庭が、そう感じられなくなってしまうことがあります。なぜなら、子どもだけでなく保護者も大きな不安を抱えて、家族が不安定な状態になることがあるからです。保護者も精神的に余裕がなくなることで、子どもを支えることが難しくなっていきます。さらに学校などとのやり取りを重ねているものの、解決できずに保護者も疲弊していく・・・そんな現実をずっと見てきました。

そんな状態になった親子が、最後の手段として私たちの元に訪れることは少なくありません。だからこそ私たちは訪れた親子に、まずは「居場所」を提供します。この居場所とは「心の拠り所」です。親子と向き合い理解に努め、伴走し、寛容な心で受け止めることを大切にしています。そこから学校や行政等、さまざまな機関と連携した子どもの自立に向けた支援のスタートです。

ターサ エデュケーション代表 市村均光さん

公園のように誰でも気軽に利用できる「みんなの居場所」

不登校支援という看板を掲げて活動を始めた〇〇のじゅく、「 のじゅく」は、4年が過ぎた今では「みんなの居場所」に変わりつつあります。月2回活動は、午前中にクラフトやイベントを行い、昼食を食べて解散という流れです。数名の子どもとその保護者、たくさんのスタッフでにぎわっています。参加は完全に自由。来たい時間に来ていつでも帰れる、予約もキャンセルも連絡は不要、公園のように誰もが気がねなく来られる居場所を目指しています。こちらが用意した工作をやる子もいれば、おもちゃやボードゲームで遊ぶ子もいます。持参したゲームで遊んでいる子もいます。

一緒にいる、一緒に遊ぶ、一緒に御飯を食べるだけの場ですが、それぞれの人が少しでもホッとできる時間が作れば良いと思っています。ここがはじめての一步になって、次へ踏み出して行って欲しいと願っています。

「 のじゅく」代表 山田千広さん

フリースペースは様々な体験を通して視野が広がる、次へのステップの場

「アリスの広場」は、不登校や家にこもりがちな若者が安心して自由に過ごせる居場所として2014年から開いています。私自身が、中学1年から約6年間不登校・ひきこもりの経験者です。ここには小学生から30歳位まで幅広い年齢の若者が来ています。スタッフに悩みを相談したり、一人で絵を描いたり本を読んだり、仲良くなった友だちとおしゃべりしたり遊んだり自由に過ごしています。

アリスの広場に通い、少しずつ元気を取り戻していく中で、例えば10代の場合では学校を辞めても高卒認定試験を受けて大学や専門学校に進学していく子も多くいます。20代では大学卒業後、社会人経験のある若者も多くいます。そうした場合、本人が望めば「お仕事体験」もできます。例えばボランティアさんが開くカフェや、他団体が運営する移動販売や農業など様々な体験ができます。お仕事体験をきっかけにアルバイトや就職した若者もいます。ここは次のステップへの居場所です。

NPO法人ぐんま若者応援ネット「アリスの広場」代表 佐藤真人さん

(4) 群馬県青少年育成事業団の支援事業

自己肯定感を育む社会体験活動 (G-SKY Plan)

社会施設や店舗、農業、工場、ボランティア等における体験活動は、学校や家庭以外の人とのふれあいや活動を通して自己肯定感を育むとともに、生活習慣を整え、通学や進学・就職への意欲向上のきっかけに繋がります。

不登校傾向のある生徒(中3)は、2学期が始まってほとんど登校できていませんでした。この状況を心配した校長先生の勧めで「G-SKY Plan」を知り、本人も生活の改善を図ろうと思い参加を決めました。体験場所は自宅近くの工場。皆さんから親切な指導を受けながら休まず熱心に取り組めました。その結果、生活リズムが規則正しくなり、自分への自信も出てきて、徐々に登校できる日が多くなっていきました。その後の進路相談で、本人の同工場での就職希望が確認されたため、ハローワーク等と連携して3月に正式な入社試験を受け合格、現在も元気に仕事を続けています。

■ 青少年自立・再学習支援事業 (G-SKY Plan) <http://www.gyc.or.jp/>

高卒認定取得でキャリアのステップアップを目指す

高校中退や中学卒業で進路が決まらないでいる方は、学び直しや高卒認定（高等学校卒業程度認定試験）に合格することで将来に新たな道が広がります。

高校中退を経験したある社会人（30代）の方は、転職で高卒資格が必要となり通信制高校入学を考えていました。ところが学習会に8月から参加、11月の認定試験で全8科目に合格することができました。文科省で資格認定されてフィリピンの語学留学が実現、帰国後に新たな職場で頑張っています。

また、高校1年で中退したある方（10代）は、「G-SKY Plan」の体験活動がきっかけで学習会に参加、2年間で4回に分けて少しずつ単位を取得、現在は通信制大学で学んでいます。

青少年会館の学習会「地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業」は、学び直しで高等学校卒業程度の学力を身につけられるよう「学習相談」と「学習支援」を行っています。

■ 青少年自立・再学習支援事業 <http://www.gyc.or.jp/>

<参考> 群馬県子ども・若者支援協議会（高校中退者等の支援）

中学校卒業後の進路未決定、高校中退の若者を対象に相談・支援をしています。

詳細は県HPを御覧ください。

<https://www.pref.gunma.jp/03/c2900104.html>

本人の状況によっては、民間支援者による訪問支援員を派遣しています。

支援は、当事者の内なる力を感じ取ることから始めていきます

私たちは、支援に携わる専門家や一般市民とも異なる役割があると考えています。活動は、当事者のストレングスの発見とその実現、そして、リカバリーを目標としています。

当事者の多くは、それまでの生活のなかで、不安感、孤立感、閉塞感、自己否定感などを経験し、人とのかかわりを（一時）肯定的には捉えられない状態にあります。そこでは、支援当初の信頼関係作りが、当事者にとって脅威にすら感じられることがあります。しかし、粘り強く肯定的な心構えで接していくなかで、「自分の気持ちを分かってもらえた」「ありのままの自分でいいんだ」などと、本人の心情の変化を実感することがあります。また、その頃の当事者は、過去より自分の未来をイメージするような心情にもなっていきます。

CCMの支援は、本人の内なる力を感じ取り、その力を信じ、次なるソーシャル・サポートにつなげる心的な活動です。

NPO法人 カウンセリング&コミュニケーション・ミュー（CCM） 山本泉さん